

※一部非公開

令和4年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース
学校教育専攻

沖縄県内地域指定推薦

共通問題

一般推薦

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

次の文章を読んで、以下の各問に答えなさい。

非公開

非公開

(カルラ・リナルディ, 里見実訳, 『レッジョ・エミリアと対話しながら一知の紡ぎ手たちの町と学校ー』, ミネルヴァ書房, 2019年, 177~179ページ, 抜粋・一部改変)

- 問1 筆者の言う傾聴とはどのようなことを意味するか。400字以上, 500字以内で答えなさい。
- 問2 筆者の言う傾聴を踏まえ, 小学校における教育の実践をイメージし, その内容を具体的に800字以上, 1,000字以内で述べなさい。

令和4年度入学試験問題 (学校推薦型選抜Ⅱ)

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース

学校教育専攻

沖縄県内地域指定推薦

共通問題

一般推薦

出題の意図

教育学部では、アドミッション・ポリシーに基づき、(1) 教員として主体性をもち、子ども及び社会と関わっていきたい人、(2) 教育の理論と実践を広く深く学ぶ意欲のある人、(3) 高等学校での基礎学力を身に付け、思考力・判断力・表現力をもつ人、(4) 沖縄の歴史的・環境的・文化的・社会的特性を活かしながら、グローバルな視点に立って教育活動に携わりたい人材を求めている。

本出題文は、子どもの声を傾聴する重要性を論じた文章である。子どもの声を聴くことは、教育という営みのなかで当たり前のことと見過ごされがちである。しかしながら、本文に示された、子ども自身が「有能な聴き手」であるという認識、他者の考えに耳を傾け受け止め、共に練りあげていこうとする力を育てるという論点は、子ども理解の在り方を問い直す視座を与えてくれる。

問1は、本文中の登場する傾聴という概念を理解しているかを問う。

問2は、傾聴を踏まえた教育実践を教師としてどう創造していくかを問う。

これらの問いを通じ、学校教育専攻のアドミッションポリシーを踏まえて、(1) 教育や子どもに関する知識・理解、(2) 小学校教員として必要な思考力・判断力・表現力、(3) 小学校教育に対する意欲・関心をみる。